

高浜市総合計画審議会（第9回） 会議録【案】			
日時	平成22年12月22日（水）午後7時～8時30分		
場所	高浜市役所 第5会議室（4階）	傍聴人数	10名
出席者	委員	中川幾郎、板倉良平、小笠原芳夫、竹内一仁、尾方勝利、鈴木康博、神谷環光、竹内亨弘、古橋知美、神谷通夫、小野田由紀子、杉浦幸七 (12名出席)	
	事務局	地域協働部長 岸上善徳 地域政策グループ リーダー 神谷美百合 同 主 幹 岡島正明 同 主 査 神谷義直 同 主 査 鈴木明美 同 主 任 山本久美 同 主 事 岩崎和也 同 主 事 中村彩 (8名出席)	
次第	1 会長あいさつ 2 議事 1) 第8回会議録の確定について 2) 中間公表（案）の意見に対する対応について 3) 総合計画（修正案）について 3 その他		
資料	資料1：高浜市総合計画審議会（第8回）会議録（案） 資料2：第6次総合計画（素案）に対する意見と考え方について（案） 資料3：第6次高浜市総合計画（修正案） 資料4：第6次総合計画 中間公表案からの修正箇所一覧		

2. 議事

1) 第8回会議録の確定について

—原案通り承認される—

2) 中間公表(案)の意見に対する対応について

事務局より、資料2について説明。

【質疑等】

- 会 長： ・ 全体で18件の意見を多いとみるか少ないとみるかもあるが、致命的な指摘は無かったと思う。基本構想に関して、基本計画部分で書かれるような詳しさを要求されているというのは、基本計画を見てくださいと言えばよい。
- 委 員： ・ 対応の考え方の中で「ご意見として承り、今後の施策の参考とさせていただきます。」とあるが、今後の施策の参考というのは、アクションプランで検討するという意味か。
- 事務局： ・ こういう意見があったということで、検討の際に参考にするということである。

—原案のとおり承認される—

3) 総合計画(修正案)について

事務局より、資料3～4について説明。

【質疑等】

- 委 員： ・ 「みんなで目指すまちづくり指標」の目標値は、各担当グループや市民会議で議論されたところだが、市の総合計画等策定委員会で議論した中で、例えば、71ページの目標(11)に掲げた指標「公園をよく利用する人の割合19.5%」、目標(12)に掲げた指標「街頭犯罪発生件数382件」など、端数が出ているところは、数値を丸めてはどうかという意見があったので、審議会でご議論をいただきたい。
- 会 長： ・ 公園をよく利用する人の割合、街頭犯罪件数、交通事故発生件数、ボランティアひろばセンター登録数、かかりつけ医を持っている人の割合の5件が該当する。丸めた方がわかりやすいので、右肩上がりの目標値は切り上げ、左肩下がりでは切捨てで、公園をよく利用する人の割合は20%、街頭犯罪件数は380件、交通事故発生件数は190件、ボランティアひろばセンター登録数は470人、かかりつけ医を持っている人の割合は72%でどうか。きりのよい数字が分かりやすいと思う。
- ・ 個人的に素晴らしい数値と思ったのが、「毎日を楽しんでいる子どもの割合」の現状値が91.7%だった。これは、高浜市が誇りとすべき数字であり、これを現状値として取り上げて、目標値が横ばいでも構わないと思っていた。「とても」を付けて、なぜ変えてしまったのか。維持することが目標でよいと思っていたが。

- 委員： ・ この指標は、アンケートが4段階で取られており、以前の案では「そう思う」と、「どちらかというと思う」を合わせたの数値だった。偏りがみられるのではないかという意見があったため、「そう思う」だけを取り上げて 49.0%、そこから少し上げて目標値 55.0%、よって「とても」という表現入れたという経緯がある。
- 委員： ・ 25 ページの矢印について。指標を維持することが望ましいと書いてあるが、この表現に少し抵抗がある。この数値が望ましいのではなく、下がるのが予想される中、頑張っって横ばいにするのであり、この数値が望ましいわけではないので、表現を考えて欲しい。
- 会長： ・ 指標の値を維持することに努めるという表現でよいか。
- 委員： ・ それでよい。
- 会長： ・ どの内容も分科会で議論し練り上げたものなので、本会議で異を唱える意見が出にくくなっているとは思う。大変ご苦勞をかけた成果がここまでできてきたと思うと感無量である。
- 委員： ・ 教育の指標「毎日をととても楽しいと感じている子どもの割合」の表現について意見はあるか。
- 委員： ・ 49%も本当に感じているのか疑問に思うので、これでよい。
- 委員： ・ 実態調査をやったというのは事実なので、この数値を現状値として捉えてよいのではないか。
- 会長： ・ 現状値は 49%でよいという意見が改めて出た。私はよそ者なので、前回の 91.7%という値は素晴らしい数値だと感激したので、提案したが、原案どおりでよいか。
- 委員： ・ 次に、市民会議の声は目標に入っているところもあり、ないところには、写真や図表を入れてある。市民会議の声をもっと載せた方がよいという説明だったが、載せられる内容はあるか。
- 事務局： ・ 分科会の議事録などがあるので、そこから抽出し、分科会のリーダーと調整しながら作業を進めたい。
- 委員： ・ 市民会議の声を載せたところは、希望があったから載せたのか。
- 事務局： ・ 元々、産業分科会から是非載せたいという提案を受けて載せた。その後、他の分科会にも広がった。11月の市民会議全体会において、事務局から市民会議の声についても検討するよう説明をしたが、目標値の検討作業に集中されていたために、そのままになっている。ここは中間公表の際にも、市民からこういう声も載せていった方がよいという意見があったので、載せる方向でお願いしたい。
- 委員： ・ 各分科会で、市民の声を拾って載せた方がよい。産業分科会では議論するうちに、最初見開き5ページのシートが見開き2ページにまとまってしまったという経緯もあるので、皆さんの思いを残していくということで書いている。ここでは優しい表現になっているが、分科会では、実際には厳しい意見もあった。事務局には忘れて欲しくないし、

担当がかわっても引き継いでもらいたい。

- 委員：・ 市民会議の検討内容をまとめたものとして、ぜひ載せた方がよい。
- 会長：・ 今、載っているところは、提案があったので載せてみたら、市民に好評だったので、載せていないところも載せるかどうかという事務局からの提案である。皆さん、載せた方がよいということだったので、載せるように。表現はそのままではなく、丸めた表現でお願いしたい。
- 原案を一部修正し、承認される—

3. その他

- 会長：・ 事務局からその他として3点報告があるとのことである。
- 事務局：・ まず1点目。本日の意見を踏まえて修正し、次回は市長に答申を提出していただく。手元に答申文案があるので、内容について審議をお願いしたい。
- 委員：・ 下から4行目、「整備し」とあるが、「構築し」との表現の方がよいのではないか。
- 委員：・ 「構築」はないものから作るもので、「整備」は、あるものをよくすることである。既に行っており、ゼロではないので、「構築」というよりは、あるものがより上向く表現のほうがよい。
- 会長：・ 「推進体制を強化し」という表現もある。
- 委員：・ 「より推し進め」という表現ではどうか。
- 会長：・ その他の個所はよろしいか。
- ・ 高浜市は民主的などころだと感心している。普通、答申文は、事務局で作ってしまう。答申文の議論までやっているところはない。それだけ手続きを踏んでいる。
- ・ では、「より推し進め」に変更することでよいか。原案から、「整備をより推し進め」に修正をお願いしたい。
- 事務局：・ 2点目。先回の市民会議全体会において、市民会議の打ち上げ会を2月頃に開催したいと提案をしたが、何を、いつ、どのようにやるのかは、事務局では案を持っておらず、審議会の委員の方からそのアイデアをいただいて、事務局で企画を練り上げていきたいと考えている。なるべく多くの人に参加してもらいたい。日程は、2月6日（日）の知事選以降を考えている。
- 委員：・ 皆さんが出やすい金曜日や土曜日など週の後半にお願いしたい。また、会長もぜひ出て欲しいので、会長が出られる週末をお願いしたい。
- 委員：・ どのような方が出席するのか。市民会議全員が一堂に会するのか。
- 会長：・ 100人くらいか。場所の制約はないか。
- 事務局：・ 場所は、どのようなやり方をするのかによる。どこかを貸し切ってやることも考えられるし、その辺を含めて意見をいただきたい。また、会費制を考えているので、金額についても意見をいただきたい。金額

によって場所も決まってくる。

- 会 長： ・ 会費として 1,000 円くらいがよい方はいるか。(順次 挙手) 2,000 円くらいの方が多い。
- 委 員： ・ まち協で懇親会をいろいろとやっているが、2,000 円会費でやっているの、その程度でよい。
- 委 員： ・ このような経済環境なので、通常やっているレベルでいいのではないか。
- 委 員： ・ 打ち上げ会をやることについて、市民の反応はどうか。
- 会 長： ・ 意見が出たとしても、自らのお金で開催しており公金を使っているわけではないので問題はない。自治基本条例だけでなく、総合計画を含めた打ち上げ会であり、市民のネットワークを深めるといった大義名分もある。
- ・ 金額も 2,000 円と決まったので、次回の審議会で事務局から提案をお願いしたい。
- 委 員： ・ 日程はどうするのか。
- 会 長： ・ 開始時間は、何時を想定するか。
- 事務局： ・ 6 時か 6 時半か 7 時くらい、お勤めの方に合わせたい。
- ・ 事務局としては、2 月 17 日 (木) がよい。
- (日程について協議)
- 事務局： ・ 2 月 17 日 (木) の午後 7 時から開催する。次回には企画案を示す。気付いた点があれば事務局までお願いしたい。
- 会 長： ・ これで、審議事項も終わったので各委員から意見をお願いしたい。
- 委 員： ・ この 1 年皆さんと総合計画や自治基本条例を作ってきて、私が一番感動したのは、「大家族たかはま」という言葉が採用されたことである。まちづくり協議会で地域共生のまちづくりに取り組んでおり、この言葉と「大家族たかはま」と方向が似ているので、感動している。
- 委 員： ・ 何回か休んでしまったが、最後までありがとうございました。
- 委 員： ・ 1 年、委員をやってきて、最初はどうなるかと思っていたが、計画としてまとまってくると、やってきた甲斐があった。
- 委 員： ・ 委員の皆さんから意見が多くて、私なりに勉強できた。ありがとうございました。これらもまだあるので、よろしくをお願いしたい。
- 委 員： ・ 1 年どうなるかと思っていたが、先日、分科会で打ち上げをして、盛り上がった。
- ・ 計画書に委員の名前がのっているが、分科会として同じ仲間で行っているの、付帯でもよいので分科会メンバーの名前があるとよい。
- 事務局： ・ 先日の市民会議のときに「メッセージをお寄せください」ということで、市民会議の皆さんに用紙をお配りした。それを別冊で文集としてまとめる。
- 委 員： ・ 先日の会議のときに、お前は夢が無いと言われ、現実路線としての意

見を言いすぎたかと反省をしていた。総合計画ができて今後、PDCAをどうしていくかが重要である。計画の策定がスタートで、今後どうしていくかを見守っていききたい。

委員： ・ 第5次総合計画の時も委員をやり第6次も委員をやったが、以前とは環境がかなり違う。今回は、自治基本条例と併せて作ったので、市の職員は大変で、職員力を上げていかないとPDCAサイクルができるか心配である。職員の意識改革と皆さんの力をかりて、市民のための総合計画にしていききたい。

委員： ・ これからの高浜市を担っていくリーダーの皆さんの熱い思いが感じられた。議会の一人として、皆さんと取り組んでいきたい。
・ 昨日、自治基本条例が、12名の賛成で可決された。来年の1月25日（火）、26日（水）の臨時議会で、1日目は総合計画の説明、質疑応答、2日目は、採決となっている。1年間ありがとうございました。

委員： ・ 第5次から10年間経過し、新しい考え方もあり、健康分科会ではいろいろな案を挙げたが、これを達成するには、市民の力が重要で、市民に情報をどのように伝えたらよいかも大事なことだと思う。

委員： ・ 市民会議の多くの女性メンバーに支えられ、皆が身近な問題として考え、市民会議の声がわかりやすくなった。しかし、これが全てではなく、補足としてあるので、これがよいという評価になるのはよかった。全部を見なくても自分に関わるところだけでも見る人が多くなるとうい。それを身近な人に伝えられればと思う。

委員： ・ まとまった冊子を見るとよくできたと感心している。市民会議の底力はすごいものであり、市民の方がよく理解できるように作られている。ここまで持つていくのは事務局が辛抱強く調整してもらった結果。市民会議と事務局が一体となって出来上がったものだと思う。ただ、これからは大変で、プランができて、目標値に向ってどうするかが、もっと工夫と努力がいるという責任を感じている。

会長： ・ 傍聴の方はよろしいか。私は傍聴に来てもらえる方が多い審議会は働いている証拠だと思う。

・ いただいた意見は間違いない意見だと思う。とりわけ私が感心したのは、市民の力である。1年前に委員就任の話があったときに、1年で自治基本条例も総合計画も両方を創り上げることは無理だ、難事業だと言った。しかし、実際に集まった100人の市民を見て驚いた。だが、多ければよいというものではなく、中味が大事であるとも思ったが、中味も素晴らしい人ばかりだった。

・ 議員の方の質の高さもよかった。自治基本条例の採択に3名の反対意見があったということだが、それも趣旨に対して全面的に反対しているわけではなく、もっと修正したほうがよくなる、という意見だったと理解している。つまり、自治基本条例そのものには、ほぼ全員賛成であったと理解している。

- あと1か月で総合計画の答申になる。多分この総合計画は、日本の総合計画の策定史に残るものだと思う。「大家族たかはま」という言葉は、どこを探しても無い。他都市の総合計画は、どこでもあるようなタイトルである。この言葉を選んだのは市民の皆さんなので、感動している。実は、もっと保守的なものを採用されるとイメージしていた。しかし、いくつかある案のうち、これが最多得票であり、高浜市を象徴している言葉であると感じた。
 - 5つのまちづくり協議会を回り、タウンミーティングにも参加し、議論が深まった。素案発表会などいろいろやり、質の高い総合計画になった。
- 事務局：
- 次回の審議会は、1月13日（木）に開催する。

以 上